

## 平成 27 年度 学校教育自己診断結果について

### 【総括】

保護者への質問数 23 のうちの 22 項目、生徒への質問項目総数 39 のうち 33 項目で肯定的回答が否定的回答を上回った。また、学校に対する総体的印象を聞く質問である「子どもは学校に行くのを楽しみにしている（保護者）」は 82%、「学校に行くのが楽しい（生徒）」は 80%といずれも高い値を維持した。

### 【学習指導等】

・今年度も 5 月と 11 月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業見学や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来る」は 80%となった。全教員が自教科と他教科の授業を見学し、見学対象の教員と授業について意見交換を行った。また授業アンケート結果を踏まえた教科・学年別の協議を行い、教科ごとに授業改善の方法について検討して報告書にまとめ、全校で共有した。

・電子黒板の整備を進めた結果、「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」は前年比 15%増となった。活用に習熟している教員による授業をアクティブラーニングの手法の観点から再構築する教員研修を行い、教員の授業力の更なる向上を図った。3 学期には学校経営推進費による整備で 3 年全教室にも電子黒板を設置したので、本校の全普通教室に電子黒板が整備された。今後、全学年で ICT を取り入れた「わかりやすい授業」をより推進していきたい。その為にも教員が ICT 機器に習熟すると共に、バランスのとれた授業での活用方法を更に研究していく必要がある。

### 【生徒指導等】

・昨年度から、携帯電話・スマートホン等の校内持ち込み制限を行っている。さらに服装指導についても生徒に品位の維持を求めて、規則の運用の厳格化を進めた結果「学校生活について先生の指導には納得できる」の生徒の肯定的回答は前年比 9%減となったが、「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の生徒の肯定的回答は 71%であり、生徒達が自主的に規律を遵守しようとする意識が高いことがわかる。

### 【地域連携等】

・昨年同様、豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流が評価された。肯定的評価は生徒 64%、保護者 80%、教職員 90%と安定的であった。今後、全ての生徒が自ら進んで事業や交流に関わるような、より魅力的なプログラムを設定することで達成感や自尊感情を高めていくことが必要である。

### 【学校運営】

・「PDCA サイクルによる学校経営を推進している」が 64%であり十分とはいえない。経営手法である PDCA についての教職員の理解を更にすすめる必要がある。

・サービスについての職員研修をワークショップ形式で実施した。「教職員のサービス規律への自覚が高い」は 80%であり、サービス規律に対する意識は高いことがわかるが、目標としては 100%を達成すべきところである。